

ひとまち文化 奏でるハーモニー♪

CAMFARE!

カンファール!

2018 Autumn **FREE**

準備号 **vol.02**

文化創造館の
顔が誕生
しました!



躍動
するシンボルマーク



制作者
グラフィックデザイナー
大崎 淳治さん

▶ SPECIAL INTERVIEW

「寄り添う」ことから始まるデザイン
～シンボルマーク制作に込められた思い～

▶ 戯曲創作ワークショップ 参加者募集!

▶ イベント出展PRのお知らせ

▶ 施設ご利用申請・抽選会のお知らせ

CAMFARE! (カンファール!)

カンファール×ファンファール
Camphor×Fanfare

※市の木「クスノキ」=カンファール

常緑樹である大きなどっしりとしたクスノキを文化創造館に見立て、そこに華やかなファンファールが鳴り響くような、にぎやかで明るい情報発信の場をイメージしています。



大崎 淳治 Junji Osaki

1999年 大崎事務所設立
Branding designを基本にCorporate Identity, Visual Identity, シンボル、パッケージ、ポスター、カレンダー、エディトリアル、サイン計画等アートディレクション&デザイン
の活動は多岐にわたる。近年の主な仕事にニフレル(水族館)VI、ハルカス300(あべのハルカス展望台)VI、大阪産業技術研究所 VI、北おおさか信用金庫 VI、大阪弁護士会 VIなど。2016年CSデザイン賞優秀賞その他デザイン賞及び講演多数。社団法人日本グラフィックデザイナー協会会員。2012-2014大阪成蹊大学芸術学部非常勤講師。
Website: <https://www.junji-osaki.com>



「寄り添う」ことから始まるデザインに、込められた思い

「東大阪市文化創造館」(2019年9月1日オープン)のシンボルマークが8月17日、発表されました。制作を担当して下さったのは、あべのハルカス展望台「ハルカス300」や万博公園エキスポシティのミュージアム・水族館「NIFREL(ニフレル)」など、数々のCI(コーポレート・アイデンティティ)、VI(ビジュアル・アイデンティティ)の制作実績を持つグラフィックデザイナーの大崎淳治さん。池田市のアトリエを訪問し、ロゴデザインに込めた思い、日頃のクリエイティブ活動への向かい方、東大阪市文化創造館への期待感などを聞かせていただきました。

●「人」と「人」が繋がる場所

—今回発表された東大阪市文化創造館のロゴデザインへの思いを聞かせてください。
大崎 今回このロゴは、人と人が出会い・繋がり・にぎわい・そして何かを生み出そうとする市民の文化の創造性を表現してデザインしました。私自身、デザインは「与える」ことであり、「与える」とは「寄り添う」ことだと思っています。この場所は東大阪の文化創造の館(やかた)ですから、「文化」に寄り添っていかねばならない。そして、「文化」とはその地に根差したローカルティ(地域性)から生まれるものです。



また「文化」は英語でカルチャー(culture)。語源はカルチベイト(cultivate)、「耕す」に由来します。人がその地を耕すことで文化が育まれる。

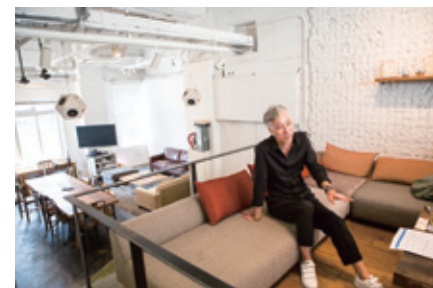
このロゴの主人公は「人」、つまり「耕す人」でもあります。文化もコミュニケーションですから、外部と繋がっていく必要があります。ロゴを一筆書きにしたのも、1本の線が描く「人と人の繋がり」をイメージしたもので、人が集まることでより豊かになる、という思いが込められています。

●跳びはねるロゴ・躍動する発信拠点
—東大阪の頭文字、「H」を表しているのもすぐ分かりました。

大崎 文化芸術の創造という観点から、ロゴは少しアートっぽいのにしよという思いがありました。なので単純にHのロゴ化ではなくて、何か微妙な線形の中で「人」を醸し出してみたかった。PR映像の中では、この人(ロゴ)が動いて伸びたり、跳んでぐるぐる回ったりします。この文化創造館がいろんな物事の発信拠点になるために、「跳び回る・翔ぶ」という動きのあるイメージも込めています。

●現場に寄り添って得るイメージ
—事前に当館の建築デザインをご覧になった時の印象はいかがでしたか？
大崎 初めて外観CGを見た時、街路側

に開かれた街角広場の開放感にひきつけられました。フラットな形状のままに芝生が敷かれた広場が広がっていて、そこでは親子がくつろぎ、カフェもある。その先にガラス張りの館が現れる、という繋がり方がとても気に入りました。人が集まりやすいアプローチになっている印象ですね。実際に建設地にも行きました。その時はまだ野原の状態でしたが、でも



周りの街の風景とかその土地の空気を感じる事ができます。現場に行ってみる事、そこに寄り添ってみることは非常に大事だと思っています。

●相手の素敵なおところを見つける仕事
—グラフィックデザイナーとして、クリエイティブ(制作活動)の手法や大切にしていることを教えてください。

大崎 私の場合、基本的にはリサーチ→コンセプト→デザインの順に考案していきます。中でも、リサーチ(調査研究)することが一番大切だと思っています。相手に寄り添って、寄り添いまくることで、相手がまだ気づいていない・見えていない素敵なおところを、デザイナーの五感を駆使して見出し、より魅力的にすることがデザインの醍醐味だと思っています。

私の経験談でもありますが、独立した頃は仕事がないため、ギブ(与える)でなくテイク(もらう)しか考えていなくて、我を張ってまでそれを押し通そうとしていました。でも相手のことをよく知らないのでは、前に進みようがないわけです。与えるためには、企業であれ、個人であれ、まずは相手に寄り添ってみるところから始まります。

例えばマークのプレゼンテーションでは、マーク以外のいろんなシミュレーションが可能です。例えばショッピングバッグとか封筒やサインなどを想定して、どこに入れたらどんな感じになるかを描き出してみます。マークそのものだけでは伝わりにくいので、マークをそこにに入れてみて、初めて相手もなるほどと感じられるんですね。また、マークの動画を制作してブランドコンセプトをみんなでも共有できるようにもします。そういった気づきが、1+1=3以上の効果につながっていくのではないかと思います。



●仕事が大好きだった少年がデザインの道へ

—大崎さんがグラフィックデザイナーの道に進まれたきっかけなどを聞かせてください。
大崎 幼い頃からわりと手先の器用な子供でした。仕事が大好きで、人が思いつかないモノをつくっては褒められたこともありました。

デザイナーになりたいと思ったのは高校生の時で、その頃はまだデザイナーの仕事内容はあまり理解できていなかったと思います。芸大のデザイン科を目指したのですが、すべて不合格。仕方なくアルバイトをしながら夜間のデザイン専門

学校に通いました。卒業後に、ある有名デザイナーの事務所で10年間程修行させていただきました。

独立して20年になりますが、時代とともにメディア環境やコミュニケーションの方法、人の価値観を含めて大きく変わってきたと思います。色や形はとても大切ですが、仕組みづくり、商品開発、販売戦略など、社会にとってデザインの役割も大きくなりつつあります。これからも社会的な課題解決やデザインの可能性を追究していきたいと思っています。

●講演活動を通じてローカルを刺激したい

—大崎さんが描く、これからの夢やチャレンジしたいことがあれば教えてください。
大崎 最近はいろんな方の要請もあって、講演を引き受けることが増えてきました。先日丹後半島の街で講演する機会があり、ローカルな雰囲気の中でたくさん話をさせていただきました。商店主や若き起業家など様々な人たちがおられ、ブランドやデザインの話をしました。声がかかればどこへでも出かけるつもりです。

自分の生き方に通じる「与える=寄り添うこと」の大切さをもっと啓蒙していきたいですし、例えば「ブランドとは、そういうことだったのか」など皆さんに分かってもらいたい。企業であれば、特にオーナーの方に分かりやすく伝えたいですね。地方では小さな企業が多いので、オーナーさんにデザインの意義を納得してもらえば、トップダウンですぐ物事は進みます。その辺りもターゲットにして私からボールを投げていきたい。ローカルに刺激を与えることによって、少しでも日本を良い方向に変えていければと思っています。

インタビュー後記

築80年を超える、通信ビルをリノベーションしたアパートメント。真っ白な壁、高い天井、さりげなく置かれたアート作品、その素敵すぎる空間とスタイリッシュな大崎さんを前に一同紅潮しながらお話を伺いました。

第一線で活躍されている方の経験談は、自分たちの仕事にも通じるものがあり、とても勉強になります。

今回のインタビューで、大崎さんのデザインに対する思いを改めてお聞きし、



●リピートしたくなる、東大阪の魅力の発信拠点に

—東大阪市文化創造館は来年秋のオープン予定ですが、今後どのように成長して欲しいかなど、メッセージをいただけますか。

大崎 まずいろんな人たちが何度も足を運ぶような施設になってほしいと思います。各地に市民会館、文化会館という名の施設はたくさんありますが、正直あまり行く機会がありません。その理由は「何も変わっていない」からではないでしょうか。行けば何か新しい発見があって、リピートしたくなる。そんな魅力づくりや仕掛けのようなものがいいと思います。

最近のことですが、奈良県のある文化会館で能楽の魅力伝える催しがあるので、何でも見てみようという思いで行ってみました。能という日本の伝統芸能に触れられて私なりの刺激を受けたのですが、能に限らず従来のジャンルにとらわれない企画力や発想が、あつと言わせるような魅力を生み出すことがあります。

他の街ではできない、東大阪ならではのオリジナリティある催しやイベントなど。例えば、ものづくりの技を活かして町工場の機材で演奏会をすとか。企画のコンペをやってみても面白いですね。発信するという意味では、どんな切り口だって可能性があると思います。そういう部分をぜひ大切にしていってほしいと思います。

私たちに託されたものは大きいと感じながらも、これからの励みとなりました。

カンファレ!編集部 栗波 八田(Photo)



東大阪市文化創造館 Pre-event

戯曲創作ワークショップ 参加者募集! ~本気で戯曲(演劇の台本や脚本)を書いてみたい方のための講習会~

「戯曲創作ってどんなもの?」「どうやって書くの?!」

話題のドラマ『おっさんずラブ』(18年)、『チア☆ダン』(18年)を担当された、人気脚本家 徳尾 浩司さんを講師にお招きして、演劇の基礎となる台本(脚本)の作り方を、全3回のワークショップの中で分かりやすい講座とともに実際に物語を書いてみながら学びます。経験は問いません!熱心に取り組んでいただける方のご参加をお待ちしています!



【受講スケジュール】 全3回

- 第1回 10月13日(土) 13:15~16:30
- 第2回 11月24日(土) 13:15~16:30
- 第3回 2019年2月25日(月) 18:30~21:15

【講師】徳尾 浩司 Koji Tokuo

【申込締切】9月30日(日)必着 【定員】約20名 【参加費】3,000円



ワークショップ概要と
申込書はこちら!

◀東大阪市文化創造館
ホームページ



花園中央公園で2大イベント開催!!

東大阪市のシンボル、ラグビーの聖地“花園ラグビー場”が改修工事を終えて10月にオープンします!

そのラグビー場に近接する“花園中央公園”で2大イベントが開催されます。ひとつは『ラグビーのまち 東大阪の夕べ2018』、そしてもうひとつは『ゆるキャラグランプリ2018 in 花園~ラグビーのまち東大阪~』。この2大イベントに文化創造館もお邪魔してPR活動を行います!みんなで遊びに来てね!



ラグビーのまち 東大阪の夕べ2018

- 日時 10月14日(日) 10:00~16:00(予定)
- 場所 花園中央公園 噴水広場

毎年大盛況!今年の日目は新しい花園ラグビー場の内覧会(有料)、ゆるキャラのステージショー、キッチンカークルメ、ウィルチェアー(車椅子)スポーツ体験コーナーなど。ご家族みんなで楽しめるイベント満載です!アメリカ総領事館主催のアメリカンデーも同時開催します。



- 日時 11月17日(土)・18日(日) 両日9:00~16:00(予定)
- 場所 花園中央公園特設会場

※ご入場にはチケット(有料)が必要です。



公式ホームページ

『大阪マラソンEXPO 2018』(出展予定)

皆さん、「大阪マラソンEXPO」ってご存知ですか?日本最大級の市民参加型マラソン「大阪マラソン」のランナーの受付会場となり、たくさんの企業のプロモーションやデモンストラーションを楽しむことができ、さらにはグルメエリア「うまいもん市場」が開設されます。

50,000人以上の来場者が見込まれる「大阪マラソンEXPO 2018」に文化創造館もPRブースを出展する予定です。マラソンに参加する人も、応援する人も楽しめる「大阪マラソンEXPO」に遊びに来てね!

大阪マラソンEXPO 2018

- 日時 11月23日(金・祝)~25日(日)
- 場所 大阪南港インテックス大阪

※ランナー受付・展示ブースは11/23、11/24のみ。詳しくは公式ホームページをご確認ください。



公式ホームページ

■施設ご利用抽選会 実施スケジュール

利用申請受付スケジュール	大ホール・小ホール 同時使用の他施設含む ※ご利用月の13ヶ月前		抽選会場
	抽選会・日時		
2019年11月利用分	2018年10月1日(月)	受付10:00~(抽選10:30~)	若江岩田駅前市民プラザ (希来里5階)多目的ホール
2019年12月利用分	2018年11月1日(木)		

○抽選会終了後の窓口受付: 抽選会の翌日9:00から受け付けます。

■発行元情報

東大阪市文化創造館 カンファール!編集部

〒577-0801
東大阪市小阪3丁目2-29 城戸八戸ノ里駅前ビル5階D
TEL. 06-4307-5772 FAX. 06-4307-5778
受付時間 9:00~19:30

URL <https://higashiosaka.hall-info.jp/>
Mail event@higashiosaka.hall-info.jp

ホームページ



フェイスブック

